

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・おひとりおひとりの生活リズムを把握しながら、ご本人が生き生き生活できるよう支援している。 ・職員と利用者様が、対等の立場で職員の一方向的な介護にならないように気をつけている。 ・ひとりひとりの意思を尊重し、出来るだけ要望に答えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>話しやすい雰囲気管理者を中心に、利用者がいつも笑顔で豊かに過ごせるように全職員が協力し合い助け合い、仲良く介護の仕事が進められている。利用者の一つひとつの言葉に対して、否定しないできちんと正確に聴き、尊厳を大切に思いながら対応している。利用者同士各部屋をまわって誘い合っゲームをしたり、お互い助け合っ生活している場面も多く微笑ましい。一人ひとりの意思を尊重し、要望が叶えられるような工夫を続けている。季節や行事を大切に考え日々の生活の中に取り入れ、自分でできることは最後まで静かに見守り、感動の言葉をかけながら支援している。利用者が今まで培ってきた経験の豊かさが披露される場合もあり、職員が学んだり感謝することが多い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ストロベリーハウス

記入者(管理者)

氏名 山本 明美

評価完了日

平成 27 年 12 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します」という理念を基に日々地域との関わりを持った生活が出来るような支援を目指している。</p> <p>(外部評価) 管理者は開設時に作った理念を貫き、常に立ち戻る根本的な考え方として全職員が共有してくれることを望んでいる。利用者一人ひとりの尊厳を大切に落ち着いた穏やかな環境で、家庭的な温かい雰囲気の中、豊かな暮らしを約束することを掲げており、地域との関わりも一つひとつ積み上げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事の参加（秋祭り・防災訓練など）を通じ地域との関わりを大切にしている。 散歩の際には、気軽に近隣住民と声をかけあったり、日ごろより交流を行っている。</p> <p>(外部評価) 散歩の時、畑仕事での近所の方と立ち話をしたり、季節の収穫した大根や桃などを頂くなど親切に交流してもらっている。秋祭りで事業所の存在を知り、後日立ち寄ってくれる子供達を喜んで歓迎している。中学生より葉書が届き感激する利用者も多く、事業所では小中学生や園児との交流を今後の課題及び目標と考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通じて、「認知症の方の症状や関わり方」などの勉強会を開き意見交換を行っている。また、地域の認知症高齢者の実情などの情報交換も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の生活状況などの報告や外部評価の結果などを話し合い、意見交換を行っている。また、アドバイスなどを取り入れたりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議の議事録は、わかりやすく丁寧に記録され誰が読んでもわかりやすく、後日ひも解くと参考になる内容が多く、評価できる。管理者は一人でも多いご家族の出席を強く望んでいる。管理者はテーマに困ることがあるが、全職員が自分のこととして考えていくことでさらに内容の充実が期待でき、利用者の豊かな暮らしにつながるので職員全員で連携する必要がある。また、議事録を全職員が共有し、介護に活かすことが望まれる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 具体的な話し合いの場としては、運営推進会議が主ではあるが、ホームの現状や報告事項などサービス内容など話し合いアドバイスを頂いたりしている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターから情報提供がある。また、市生活福祉課の訪問は現状把握のために年2回あり、介護保険課とは課題解決や介護関係の法改正等の問い合わせなど関わりは深い。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員ひとりひとりが、身体拘束にあたる事例や具体的なケース等を話し合い理解している。日中は、出入口の施錠を開き、自由に行き来できるようにしている。	
			(外部評価) 法人全体の研修を受け、身体拘束をしないケアについて職員が共有している。安全確保しつつ利用者の自由な暮らしを支援するため、玄関の施錠は夜間のみとしている。言葉遣い、特に声かけには配慮している。大きな声のトーンは慎み、職員間でも気を付けあうなど抑圧感の無い豊かな暮らしの支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どのような状況において虐待に当たるのか日頃より話し合いをしている。入浴時などには、傷やあざがないかなど確認をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている入居者様がいるが、他の入居者にも活用できるよう勉強できる機会を今後増やしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居者様や家族の方が不安に思われる事がないよう、十分に説明して頂いたうえで納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口を設けており、ご家族からの意見や要望などを伺う機会を設置している。 (外部評価) 意見箱は設置しているが、使われないのが残念である。大きな苦情は特にはないが、「利用者本人が日々楽しく、周りの方々と仲良く迷惑をかけないように見守ってほしい」「転ばないように気を付けてほしい」など家族からの要望があり、ケアに結び付け実行している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) ユニット会やミーティングなどで意見や要望を聞く機会を随時設けている。また、職員の提案事項などを反映している。</p> <p>(外部評価) 利用者の状況や実情をよく知っている職員からの質問や意見を大切に聴き運営に活かしている。職員同士仲良く年齢差はあっても輪を軸にすることで、働く意欲を向上させ質の確保につながるよう管理者は導いている。また、シフトについても職員の意向が叶えられている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員ひとりひとりが、やりがいを持って働けるように日頃から話し合いの場を持ち生かしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修へは、積極的に参加している。また、働きながら学び、向上できるよう職員の力量の把握に努めている。法人内の年間を通じての研修を受け、実務に生かしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域主催の交流会にも参加し、他の事業所とも交流をしている。また、意見やアドバイスなどを参考にサービスの向上に努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前より本人やご家族を交えて話し合いをし、要望や希望などを聞き、それに答えるように努力している。少しでも不安な点があれば、話して頂くようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期において、ホームでの生活に不安を覚えているケースが多いので本人とのコミュニケーションを取りながら不安に思っている事などや思いをくみ取っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ケアプランの作成時の家族の意見を聞いたり、要望にも耳を傾けている。また他のサービスを含めた話し合いも行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一方的な介護にならないようご本人が出来る事の把握に努め、出来ることはして頂くようにしている。また暮らしていく上での援助方法についても職員間で話し合っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会に来られた時には、その方の生活ぶりをお話したり食事介助をされているご家族もおられる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔からの馴染みの深い方の面会もあり、居室にてご一緒に談笑されたりしている場面もみられる。自由に来て頂けるよう支援に努めている。	
			(外部評価) 同じフロアにデイサービスルームがあり、馴染みの人との交流が生まれている。ご兄弟が来所することで、状況を聞いたり利用者と話す機会ともなるため、ご家族の方に来てほしい願望は強い。管理者は無理のない範囲での来所を期待している。利用者も年を重ね、以前より外出しての交流希望が少なくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に外出行事や室内行事に参加したり、互いに楽しめる雰囲気づくりに努めている。またそのような活動を通じて利用者間が支えあえるよう交流を深めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方の近況報告や電話を通じての交流など関係を築いている。また、ご相談など等があればその都度話し合っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活を通じ、職員が利用者の方に要望や意向をお聞きしている。また、本人の生活スタイルを崩さないように支援している。 (外部評価) 日常生活の中で利用者の趣味や嗜好などを聞き漏らさないよう留意している。特にテレビを見ている時間は意向を把握できるチャンスであるため、声かけに工夫し導いている。お寿司が好きな利用者やお花が好きな利用者などの意向を組み入れたサービスを計画し実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前よりご本人の生活歴や趣味、生活環境の把握に努めている。また、ご家族の方にもこれまでの生活ぶりについて聞かせて頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様のおひとりおひとりの出来る事と出来ない事の把握に努め、出来る事に関しては職員の一時的な介助にならないよう側面から支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のケアカンファレンス会議にて、職員同士の意見交換や援助方法の相談をしている。またご家族の要望も取り入れ、ご確認して頂いている。	
			(外部評価) 毎月ケアカンファレンスを実施している。介護計画は本人がよりよく暮らすための課題やケアの在り方について、意見や気づきやアイデアなどを職員が出し合い、家族からの要望も取り入れながら作成しており、見直しは3か月に1回が基本であるが、状態の変化があった場合にはその都度計画を見直している。なお、計画書には確認の意味で家族に捺印してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活ぶりや会話の内容など個別に記入しておりケアプランを実践し、計画の見直しに活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人様やご家族様のご要望に耳を傾け、同事業所との連携を図り支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の美容師にカットを依頼しており、楽しみにしておられる方もおり、夕涼み会や納涼祭等への参加をしたり、防災訓練も地域の消防署と連携している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居前においてかかりつけ医との健康診断を納得の 上実施して頂いている。また、他の病院を希望される 方などは柔軟に対応させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関を受診している利用者がほとんどである が、入居前のかかりつけ医の受診継続の利用者もおり 柔軟に対応している。また、必要に応じ血液検査やレ ントゲン、CT検査などを実施し健康管理に万全を期 しており、結果は家族も含め共有している。インフル エンザや感染症予防のため、うがいや手洗い等を励行 し、湿度などには常に気を配っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週2回の訪問看護の際に、生活状況や身体状況を報告 しその都度相談し適切なアドバイスを頂いている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院先の医療関係者との情報交換や相談に努めてい る。また適時訪問し、状態の変化など詳しく聞くよう に努力している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 医師や看護師との話し合い、重度化や終末期に向 けた方針について話し合い、納得して頂いている。ま た、重度化や終末期に向けた方針に同意をして頂いて いる。</p> <p>(外部評価) 今までに一週間程の看取り経験があり職員にとっても 貴重な体験となっている。管理者の配慮で息子さんが 臨終に立ち会え感謝されている。家族には事業所で可 能な範囲の看取りを丁寧に説明している。看取りの指 針も作成されており、入居時に説明しその時期が来た ら再度説明し同意書に捺印を頂き、話し合いを重ね進 められてきた経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急対応の研修などに参加し、日ごろより実践力を身につけるように努めている。地域の救命救急講習やAEDの使用方法についても理解を深めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を行い、利用者様の安全な避難方法を確認している。運営推進会議において議題として協力体制を築いている。 (外部評価) 運営推進会議のおかげで地域との協力体制が築け、区長等の尽力に感謝している。集会所での訓練は小野小学校体育館前に集合し、利用者も参加している。防災マップに事業所も掲載されているので、協力体制は出来上がっている。避難訓練については、夜間を想定しての実施が望まれる。水や食べ物の備蓄はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ひとりひとりの力に応じて声掛けや対応を行っている。プライバシーを損ねないように努めている。ちょっとした声かけにも注意している。 (外部評価) 言葉遣いのシートのチェックを職員一人ひとりが自己評価し、接遇委員が目を通すようにしている。ウェルケア全体を含む法人の研修の中でテーマとして取り上げ、全職員も確認し合っている。耳が遠い方には耳元で肩を軽くトントンして合図を送ったり、ゆっくりはっきり優しい言葉を使うよう心掛けている。運営推進会議でも接遇について学習している。利用者の呼び方は名字で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の思いや希望で自己決定に結び付けている。意思決定が困難な利用者様は、表情などから思いをくみ取るよう心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先することなく、ひとりひとりの生活ペースに合わせた支援をしている。その日の状況に合わせて一日を過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容を心がけ、希望の服装を取り入れながらその人にあった身だしなみを心がけるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食べたいメニューを聞いたり、参考にしたりしてメニュー表を作成している。みんなで食事する事が出来ている。	
			(外部評価) 食材の買い物は利用者も一緒に行き、メニューは職員みんなが一週間づつ季節感を盛り込み考えている。利用者一人ひとりの力にあった手伝いをしており、ちらし寿しの時はうちわを持ってきてあおいでくれたり、下膳は男性利用者の大切な役割になるなど職員も感謝して見守っている。普通食が困難な利用者には、ミキサー食やソフト食にするなど柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考え、献立を作りひとりひとりの食事量や水分摂取量を把握できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、ひとりひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っている。口腔内の清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表においてひとりひとりの排泄パターンの把握に努めている。ご本人の持っている力に応じてトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 定期的なトイレ誘導を行っている。やさしく声をかけ「歩いてみませんか」「散歩しませんか」と立位を取ってもらい、歩いた後「あったかいですよ便器は」と誘導するなど、ゆっくり支援している。早めの声掛けを大切にしながら、排便時は下着が汚れていないか必ず確認し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜を豊富に取り入れたメニューを作成し、便秘予防に努めたりしている。また、ひとりひとりの持っている力に合わせた歩行運動などを取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人が気持ちよく入浴できるよう、順番や曜日など要望に耳を傾け柔軟に対応できるよう心掛けている。入浴を楽しみにしておられる方もおられる。	
			(外部評価) 足元が不安定な利用者は必ず介助し、出来る作業は一緒に行っている。利用者は一週間に2回の入浴を楽しみにしている。午前中に入浴で一日心地よく過ごしている。肌が乾燥する場合は、保湿剤を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人が休みたい時間に休んで頂いている。訴えない場合等状況に合わせて対応している。また、室温や衣類の調整もしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋の確認や薬の管理票を作成し、用法や用量を理解している。服薬は、医師の指示通りに確実にして頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯干しやたたむ等お手伝いをしていただいている。日々のレクリエーションや行事の際のゲーム等みんなで楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、屋外へ散歩に出かけたり季節ごとに普段行けない場所へ出かけたりしている。ご家族の要望で外出や外泊される事もある。	
			(外部評価) 花木センターや花の名所、アジサイ等の花見に行ったり、喫茶店や内子へのぶどう狩り、奥道後の菊花展などにドライブに行くなど利用者に喜ばれている。日常的には気候の良い時期に散歩に出かけ気分転換をしている。地域の方と交流し、生き生きと過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の知識や取扱いの理解がある方はご自身で管理されておられる。また買い物を楽しみにさせておられる方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方へ手紙を書かれる利用様もおられる。また、年賀状の作成等、ご本人が出来る事はして頂いている。都合のいい時間に電話で話されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホール共用部においては、行事のイベント等の飾りつけをしたりリースを飾り、季節感を出すようにしている。また、ホールでは自由に行き来ができるようにソファや机の配置を工夫している。	
			(外部評価) ゆったりとしたソファに座り、利用者同士で会話が弾んでいる。共用空間の足元には、物を置かず安全に過ごせるよう片付けや気配りをしている。台所と食堂がつながり、調理の音やにおいは利用者の五感を心地よく刺激し、食欲を増進させてくれる。程よい広さで、明るく暖かく過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用部の席は、気の合う利用者様に近く席に座って頂き、好きな時間にお話しや談笑が出来るようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや、見慣れたものなど家庭で使っていたものなどを各居室に置いて頂き、生活環境に考慮している。	
			(外部評価) 利用者の自慢の作品を壁に貼ったり、大好きな写真を置いたり、タンスやテレビや机を家族の協力を得て持ち込み、自分の大切な空間を作っている。衣類は季節に応じ交換し満足している。また、掃除が行き届き清潔な環境で暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所や各居室がわかるよう、顔写真や名前を入れるなどの工夫を行っている。また、安全な場所を確保できるような住環境にも気を配っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 2月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりのもてる力を把握し、ご自分で出来る事に関してはして頂き、職員は側面から援助するよう心がけている。 ・ご自身が、楽しみにしている趣味(工作や編物など)を大切に、ホームでも続けていけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>話しやすい雰囲気管理者を中心に、利用者がいつも笑顔で豊かに過ごせるように全職員が協力し合い助け合い、仲良く介護の仕事が進められている。利用者の一つひとつの言葉に対して、否定しないできちんと正確に聴き、尊厳を大切に思いながら対応している。利用者同士各部屋をまわって誘い合っゲームをしたり、お互い助け合っ生活している場面も多く微笑ましい。一人ひとりの意思を尊重し、要望が叶えられるような工夫を続けている。季節や行事を大切に考え日々の生活の中に取り入れ、自分でできることは最後まで静かに見守り、感動の言葉をかけながら支援している。利用者が今まで培ってきた経験の豊かさが披露される場合もあり、職員が学んだり感謝することが多い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)

氏名 山本 明美

評価完了日

平成27年 12 月 31 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ホームでの理念の基、地域の一員として安心して暮らしていけるよう支援している。地域行事の参加を通じて地域住民との交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 管理者は開設時に作った理念を貫き、常に立ち戻る根本的な考え方として全職員が共有してくれることを望んでいる。利用者一人ひとりの尊厳を大切に落ち着いた穏やかな環境で、家庭的な温かい雰囲気の中、豊かな暮らしを約束することを掲げており、地域との関わりも一つひとつ積み上げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事の参加には積極的に参加をしている。地域の防災訓練・消防訓練・秋祭りや夏越しの参加など季節行事を通して日常的に交流を深めている。</p> <p>(外部評価) 散歩の時、畑仕事での近所の方と立ち話をしたり、季節の収穫した大根や桃などを頂くなど親切に交流してもらっている。秋祭りで事業所の存在を知り、後日立ち寄ってくれる子供達を喜んで歓迎している。中学生より葉書が届き感激する利用者も多く、事業所では小中学生や園児との交流を今後の課題及び目標と考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議などを通じて認知症の理解を議題に上げたりして理解を深めている。地域に役立つ情報の提供や実践内容などを話している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、毎回利用者様の状況や生活ぶりを話をしている。また、毎年の自己評価の公表や外部評価の結果公表を通じてサービスの向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の議事録は、わかりやすく丁寧に記録され誰が読んでもわかりやすく、後日ひも解くと参考になる内容が多く、評価できる。管理者は一人でも多いご家族の出席を強く望んでいる。管理者はテーマに困ることがあるが、全職員が自分のこととして考えていくことでさらに内容の充実が期待でき、利用者の豊かな暮らしにつながるので職員全員で連携する必要がある。また、議事録を全職員が共有し、介護に活かすことが望まれる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議において、利用者様の生活ぶりや状況などの報告を通じてアドバイスや意見を取り入れている。また、相談などに関しては適時連絡している。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターから情報提供がある。また、市生活福祉課の訪問は現状把握のために年2回あり、介護保険課とは課題解決や介護関係の法改正等の問い合わせなど関わりは深い。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ユニット会や法人主催の職員研修を通じて具体的な身体拘束の内容や実状などの理解に努めている。また、常日頃の言葉づかいなどには十分注意を払っている。</p> <p>(外部評価) 法人全体の研修を受け、身体拘束をしないケアについて職員が共有している。安全確保しつつ利用者の自由な暮らしを支援するため、玄関の施錠は夜間のみとしている。言葉遣い、特に声かけには配慮している。大きな声のトーンは慎み、職員間でも気を付けあうなど抑圧感の無い豊かな暮らしの支援を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止については、身体拘束と重なる点が多いので日頃のケアの見直しや入浴時などさりげない確認を行っている。また日頃のケアに関して職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている利用者様はおられないが、将来的な視点を考え、必要と感じる方などについて話し合いもしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族が不安になる点などについては、随時対応している。介護報酬改定に伴う料金改定などは書面に捺印して頂き、納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置を行っている。また、いつでも来所されたご家族の要望や意見などを気軽に話して頂けるようにしている。	
			(外部評価) 意見箱は設置しているが、使われないのが残念である。大きな苦情は特にはないが、「利用者本人が日々楽しく、周りの方々と仲良く迷惑をかけないように見守ってほしい」「転ばないように気を付けてほしい」など家族からの要望があり、ケアに結び付け実行している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 日頃より職員の意見や提案事項などに耳を傾け、反映 していけるよう努めている。ユニット会において、 具体的な意見を交換している。	
			(外部評価) 利用者の状況や実情をよく知っている職員からの質問 や意見を大切に聴き運営に活かしている。職員同士仲 良く年齢差はあっても輪を軸にすることで、働く意欲 を向上させ質の確保につながるよう管理者は導いてい る。また、シフトについても職員の意向が叶えられて いる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員ひとりひとりが、やりがいを持てるように置かれ ている状況を把握し、向上心を持って働けるよう努め ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修が開催されており、積極的に参加をして いただき、日頃のケアに結び付けれるよう努めてい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会や相互研修などで、お互いの ホームの特徴や意見や提案をして、サービスの向上に 生かしている。また、研修会において担当部署との連 携を通じて協力関係を築いている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前より本人やご家族を交えて話し合いをし、意見 や希望などを聞き、それに答えるように努力してい る。また、日頃のケアに生かすよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方との話し合いをし、要望や意見を聞きそれに答えるように努力している。面会時には、日頃の生活ぶりを話したりしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメント事項の把握を行い、ケアプランの作成や家族からの要望などに耳を傾けている。他のサービスが必要な方などは、柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一方的な介護にならないよう、ご本人が出来る事はご自分でして頂いている。暮らしを共に支えあう関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員の一方的な介護にならないよう、病院受診時には出来るだけ家族にも付き添って頂いている。また、家族からのご要望にも耳を傾けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時に来所された時には、和やかな時間を過ごして頂けるように努めている。馴染みの友人や近隣の方など自由に来所して頂いている。 (外部評価) 同じフロアにデイサービスルームがあり、馴染みの人との交流が生まれている。ご兄弟が来所することで、状況を聞いたり利用者と話す機会ともなるため、ご家族の方に来てほしい願望は強い。管理者は無理のない範囲での来所を期待している。利用者も年を重ね、以前より外出しての交流希望が少なくなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーション等、なるべく多くの方が参加できる事を工夫して行っている。食事の際には、テーブルを囲んで気兼ねない会話ができるよう工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても私用でお会いしたりする機会があれば気兼ねなく相談や会話を楽しんでいる。関係が途絶えないよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より、日常のコミュニケーションの中で思いや希望をくみ取っている。場合によっては、本人本位で対応している。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者の趣味や嗜好などを聞き漏らさないよう留意している。特にテレビを見ている時間は意向を把握できるチャンスであるため、声かけに工夫し導いている。お寿司が好きな利用者やお花が好きな利用者などの意向を組み入れたサービスを計画し実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの介護サービス歴や生活歴の把握に努め、こちらでの生活に生かしていけるよう支援方法に組み込んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの生活リズムの把握に努めている。また、ご自分で出来る事は、ご自分でして頂く事で心身機能の維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを定期的に関き、ご本人や家族の意見を参考にしながら、現状の状態に即したケアプランを作成している。	
			(外部評価) 毎月ケアカンファレンスを実施している。介護計画は本人がよりよく暮らすための課題やケアの在り方について、意見や気づきやアイデアなどを職員が出し合い、家族からの要望も取り入れながら作成しており、見直しは3か月に1回が基本であるが、状態の変化があった場合にはその都度計画を見直している。なお、計画書には確認の意味で家族に捺印してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録にその日の生活ぶりを記入している。また、そこで気づいた点や様子の変化などを記入し介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の方の要望を聞き、他のサービスを視野に入れながら同事業所との連携を図っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 消防署との連携や地域の防災訓練への参加を通じて、地域資源の把握に努め有効に活用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月一回の往診と利用者様の体調により受診して頂いて いる。ご本人とご家族の納得の上、かかりつけ医との 協力関係が築けるように支援している。	
			(外部評価) 協力医療機関を受診している利用者がほとんどである が、入居前のかかりつけ医の受診継続の利用者もおり 柔軟に対応している。また、必要に応じ血液検査やレ ントゲン、CT検査などを実施し健康管理に万全を期 しており、結果は家族も含め共有している。インフル エンザや感染症予防のため、うがいや手洗い等を励行 し、湿度などには常に気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週2回の訪問看護時には、日常の生活ぶりや状況を報 告し、アドバイスを頂いている。24時間の連携が取れ るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院する際、ご家族や病院関係者と身体機 能や状況の報告や相談事項など連絡を取り合ってい る。退院時には、看護サマリーの指示に従い支援して いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人様の意思決定を尊重し、ご家族と医師と話し合 いを続けながら連携を取っている。看取り介護指針に 基づき理解と同意をして頂いている。	
			(外部評価) 今までに一週間程の看取り経験があり職員にとっても 貴重な体験となっている。管理者の配慮で息子さんが 臨終に立ち会え感謝されている。家族には事業所で可 能な範囲の看取りを丁寧に説明している。看取りの指 針も作成されており、入居時に説明しその時期が来た ら再度説明し同意書に捺印を頂き、話し合いを重ね進 められてきた経緯がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 地域で開催される救命救急講習への参加をし、実践を通じてもしもの時の対応に努めている。心肺蘇生法やAEDの使用方法の理解にも努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練や地域の防災訓練にも参加している。地域の防災組織にも組み込まれており、協力関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議のおかげで地域との協力体制が築け、区長等の尽力に感謝している。集会所での訓練は小野小学校体育館前に集合し、利用者も参加している。防災マップに事業所も掲載されているので、協力体制は出来上がっている。避難訓練については、夜間を想定しての実施が望まれる。水や食べ物の備蓄はある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご本人の状況を把握しながら、言葉遣いには注意を払っている。また、個室でのプライバシーの確保にも努めている。言葉づかいなど定期的にシートでチェックしている。	
			(外部評価) 言葉遣いのシートのチェックを職員一人ひとりが自己評価し、接遇委員が目を通すようにしている。ウェルケア全体を含む法人の研修の中でテーマとして取り上げ、全職員も確認し合っている。耳が遠い方には耳元で肩を軽くトントンして合図を送ったり、ゆっくりはっきり優しい言葉を使うよう心掛けている。運営推進会議でも接遇について学習している。利用者の呼び方は名字で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 状況に応じてご本人が意思決定できるよう働きかけたり日常生活の場において思いや訴えに耳を傾けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) おひとりおひとりのニーズと状況に合わせ、レクリエーションの声掛けや談笑などをし、ご希望に沿った援助を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみにも気を配り、好きな洋服の要望を聞いたりしている。外出される際など、お化粧をされる方もおられる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日頃の会話の中で好きな食べ物をメニューに入れたりして。また、片付けなどご自分の役割を持って生活して頂いてる。	
			(外部評価) 食材の買い物は利用者も一緒に行き、メニューは職員みんなが一週間づつ季節感を盛り込み考えている。利用者一人ひとりの力にあつた手伝いをしており、ちらし寿しの時はうちわを持ってきてあおいでくれたり、下膳は男性利用者の大切な役割になるなど職員も感謝して見守っている。普通食が困難な利用者には、ミキサー食やソフト食にするなど柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考えたメニューを取り入れたり、水分摂取量などおひとりおひとり把握している。なるべく食べ残しのないよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行い清潔を保っている。ご自身で出来る方は側面から援助を行い、本人の力に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) おひとりおひとりの排泄パターンを把握している。なるべくトイレで気持ち良く排泄して頂くよう支援している。	
			(外部評価) 定期的なトイレ誘導を行っている。やさしく声をかけ「歩いてみませんか」「散歩しませんか」と立位を取ってもらい、歩いた後「あったかいですよ便器は」と誘導するなど、ゆっくり支援している。早めの声掛けを大切にしながら、排便時は下着が汚れていないか必ず確認し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防としては、メニューに野菜を多く入れたり水分摂取量の把握に努めている。またTV体操や適度な運動を取り入れ援助している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の都合に合わせるのではなく、なるべく利用者の希望にあった時間帯や曜日にしている。入浴中は、気持ちよく入って頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 足元が不安定な利用者は必ず介助し、出来る作業は一緒に行っている。利用者は一週間に2回の入浴を楽しみにしている。午前中に入浴で一日心地よく過ごしている。肌が乾燥する場合は、保湿剤を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣は大事にしている。その人が好きな時間に休息が出来るように支援している。また、状況に合わせて休息のお声かけなどを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の回数や用途など職員ひとりひとりが確認して服薬して頂いている。処方内容の変化があった場合には処方箋にて随時確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ひとりひとりが個性を生かしたもの（塗り絵や折り紙や編み物）などをして頂いている。文化祭の展示作品の制作や行事の飾りつけの制作にも熱心にされておられる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出行事にて普段行けない場所に出かけたりしている。ご家族が来所された時には、自由にお食事やお買い物へ出かけたりしている。	
			(外部評価) 花木センターや花の名所、アジサイ等の花見に行ったり、喫茶店や内子へのぶどう狩り、奥道後の菊花展などにドライブに行くなど利用者に喜ばれている。日常的には気候の良い時期に散歩に出かけ気分転換をしている。地域の方と交流し、生き生きと過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分で管理できる方に関しては所持金をお渡ししている。また、管理できない方は、一度こちらで管理させて頂き、日用品のご購入の要望に応じている。お金を使う事の楽しみを理解している方もおられる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の訴え等により、電話連絡される方もおられる。また手紙のやり取りは、ご本人希望でされる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごして頂けるように、季節感のある飾りなどには工夫している。また、車椅子の方が好きな時間に自由に行き来できるようテーブルやソファの位置にも配慮している。	
			(外部評価) ゆったりとしたソファに座り、利用者同士で会話が弾んでいる。共用空間の足元には、物を置かず安全に過ごせるよう片付けや気配りをしている。台所と食堂がつながり、調理の音やにおいは利用者の五感を心地よく刺激し、食欲を増進させてくれる。程よい広さで、明るく暖かく過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用部には、ゆったりできるソファを置き、好きな時間にくつろげるようにスペースを確保している。また気の合った利用者様とは、ゆっくり話が出来るように配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものは、利用者様やご家族の要望で自由に持参して頂いている。入居前にご家族と話し合い、家具や衣類なども持参されている。	
			(外部評価) 利用者の自慢の作品を壁に貼ったり、大好きな写真を置いたり、タンスやテレビや机を家族の協力を得て持ち込み、自分の大切な空間を作っている。衣類は季節に応じ交換し満足している。また、掃除が行き届き清潔な環境で暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 少しでも長く自立した生活が出来るよう「出来る事」の把握に努め職員は側面から支援していけるよう努めている。	